令和５年 10 月６日(金)発行

# 奈良県感染症情報

令和５年 第 39 週( ９月 25 日～ 10 月１日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

**咽頭結膜熱 流行中！**

今週の概要
- インフルエンザワクチンについて

## ❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 新型コロナウイルス感染症 | 9.40 | (11.09) | ↘ | ↘ | ↓ | → |
| 2 | インフルエンザ | 6.33 | (4.31) | ↑ | ↑ | ↑↑ | → |
| 3 | 咽頭結膜熱 | 3.88 | (2.26) | ↑ | ↗ | ↑ | ↑↑ |
| 4 | A群溶連菌咽頭炎 | 2.94 | (3.12) | ↗ | ↗ | → | ↑↑ |
| 5 | 感染性胃腸炎 | 2.18 | (2.91) | ↘ | → | ↓ | ↘ |

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

## ❖県内概況❖

第 39 週の新型コロナウイルス感染症の定点当たりの報告数は 9.40 でした。インフルエンザの定点あたり報告数は 6.33 と増加傾向です。保健研究センターでは AH3 型のインフルエンザウイルスを検出しています。手洗いの励行やワクチン接種の検討を含め、引き続き、感染対策をお願いします。

咽頭結膜熱(プール熱)の定点当たり報告数は 3.88 で、警報開始基準値の 3 を超えました。咽頭結膜熱は、アデノウイルスを原因とする感染症で、主な感染経路は飛沫感染や接触感染です。アデノウイルス感染症には今のところ有効な治療薬がありません。流水と石けんによる手洗い、タオル等の共用を避けるといった感染予防策が大切です。

A 群溶連菌咽頭炎の定点あたり報告数も 2.94 と、高い水準を維持しています。

今は季節の変わり目です。体調を整え、感染症にかからないよう注意してください。

## ❖インフルエンザワクチンについて❖

2023/2024 シーズンのインフルエンザワクチン接種が各自治体で始まっています。今年はインフルエンザの流行がすでに見られており、「もっと早く接種できたらいいのに・・」と思う方も多いかもしれません。

毎年、接種開始がこの時期になるのはなぜでしょうか。

インフルエンザウイルスは、シーズンごとに流行する型や性質が変化しやすい特徴があり、未来にどんなウイルスが流行するのかを予測することはとても難しいことです。日本を含め、世界中の保健衛生機関が毎シーズンのインフルエンザ患者検体を収集してウイルスを分離し、遺伝子解析や各種の試験を行って膨大なデータを蓄積しています。そして、世界保健機関(WHO)がこれら世界中のデータを集約し、毎年２月ごろにワクチン推奨株選定会議で次シーズン向けワクチン推奨株を決定し、公表します。

WHO 推奨株が決まると国内で慎重な検討の上、例年 4 月に厚生労働省からワクチン製造株の決定が通知され、ワクチン製造会社での製造が開始されます。そして、インフルエンザの流行が始まる直前の 10 月ごろにワクチン接種開始、という運びとなります。

ワクチンの予防効果が期待できるのは、接種した 2 週間後から 5 ヶ月程度と考えられています。接種すればインフルエンザに絶対かからない、ということはありませんが、発症の予防と発症したときの重症化を防ぐことには一定の効果が期待できるとされています。
日常の感染予防策にくわえ、ワクチン接種も検討されると良いでしょう。

(参考)不活化ワクチン・生ワクチンの製造の流れ(厚生労働省ホームページより)
https://www.mhlw.go.jp/content/000557367.pdf



令和５年 10 月 13 日(金)発行

# 奈良県感染症情報

令和５年 第 40 週( 10 月２日～ 10 月８日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

**咽頭結膜熱 警報発令中！**

今週の概要
- 小児科外来情報
- ９月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

## ❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | インフルエンザ | 6.22 | (6.33) | ↑ | ↑ | ↑ | ↗ |
| 2 | 新型コロナウイルス感染症 | 5.38 | (9.40) | ↓ | ↓ | ↓ | ↘ |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 3.53 | (2.94) | ↗ | → | ↗ | ↘ |
| 4 | 咽頭結膜熱 | 3.50 | (3.88) | ↗ | ↗ | ↗ | → |
| 5 | 感染性胃腸炎 | 3.18 | (2.18) | → | → | → | → |

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

## ❖県内概況❖

第 40 週はインフルエンザの定点あたり報告数が 6.22 となりました。新型コロナウイルス感染症の定点当たりの報告数は 5.38 で、前週から大きく減少しました。両疾患とも主な感染経路は飛沫感染や接触感染とされています。引き続き手洗いの励行や換気、消毒、距離、マスクの着用等の基本的な感染対策をお願いします。

咽頭結膜熱(プール熱)の定点当たり報告数は 3.50 で、警報レベルを維持しています。県中部での報告数が特に多くなっています。流水と石けんによる手洗い、タオル等の共用を避けるといった感染予防に努めてください。

A 群溶連菌咽頭炎の定点あたり報告数も 3.53 と高い水準にあり、特に中和地区西部においては顕著な流行が見られます。感染経路は接触感染が主で、集団生活の場での感染が多いとされています。抗菌薬による治療が可能な疾患であり、急な発熱や咽頭炎といった症状がある場合は医療機関を受診しましょう。

## ✤小児科外来情報✤

**北部地区(田中小児科医院)**

気温の低下とともに、咳と鼻水を主訴とする受診が増えている。
COVID-19 の陽性例は減少した。インフルエンザは A 型ほとんどであるが、B 型の陽性例もあった。
溶連菌感染症とヘルパンギーナの流行は続いている。アデノと RS の陽性例はない。

**中部地区(岡本内科こどもクリニック)**

短期の発熱、鼻水程度の上気道炎が主。
COVID-19 陽性例はやや減少した。
インフルエンザ A 型例は見られるが増加は顕著ではない。
RS、hMP 肺炎も減少した。
感染性腸炎が持続、症状は嘔吐なく軽度の下痢で軽症経過である。
A 群溶血性連鎖球菌があった。

**南部地区(南奈良総合医療センター小児科)**

COVID-19 感染症の流行は続くも横ばい状態。またA型インフルエンザも大きな流行にはなっていない。
アデノウイルス咽頭炎やヘルパンギーナはまだみられている。
遷延する呼吸器感染症ではヒトメタニューモウイルス、パラインフルエンザ2型、百日咳が散見されている。

令和５年10月20日(金)発行

# 奈良県感染症情報

令和５年 第41週( 10月９日～ 10月15日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

咽頭結膜熱 警報発令中！

今週の概要
- インフルエンザに注意しましょう
- 気になる話題 －梅毒が拡大していますー

## ❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | インフルエンザ | 5.85 | (6.22) | ↗ | → | ↗ | ↑ |
| 2 | 新型コロナウイルス感染症 | 4.65 | (5.38) | ↓ | ↓ | ↓ | → |
| 3 | 咽頭結膜熱 | 4.15 | (3.50) | ↗ | ↗ | ↗ | ↘ |
| 4 | A群溶連菌咽頭炎 | 3.15 | (3.53) | → | → | → | ↗ |
| 5 | 感染性胃腸炎 | 2.38 | (3.18) | ↘ | → | ↘ | ↘ |

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

## ❖県内概況❖

第41週のインフルエンザの定点あたり報告数は5.85でした。県全域で報告されていますが、中和地区西部では定点あたり報告数が前週の6.7から10.0に大きく増加し、地域流行が見られます。

新型コロナウイルス感染症の定点当たりの報告数は4.65で、前週に続いて減少しました。

咽頭結膜熱(プール熱)の定点当たり報告数は4.15で依然として警報レベルにあります。県中部での報告数が特に多い状態です。

A群溶連菌咽頭炎の定点あたり報告数も3.15と高い水準が続いており、中和地区西部における地域流行が継続しています。

上記のように呼吸器感染症が流行しています。今は気温の変化が大きく、感染症にかかりやすい時期といえます。咳エチケット、手洗い、換気、距離、マスクの適切な着用といった感染対策をお願いします。

## ❖インフルエンザに注意しましょう❖

今年は、例年の同時期に比べて定点あたりのインフルエンザ報告数が多い状態です。

季節性インフルエンザのウイルスには、A(H1N1)亜型、A(H3N2)亜型、2系統のB型の4種類があります。新型コロナウイルス感染症が流行していた2020年から2022年はインフルエンザの流行が低調であったこと等の影響で、A(H1N1)亜型やA(H3N2)亜型の抗体保有率が全年齢で低下傾向にあるとされ、インフルエンザの流行が起こりやすい状況と考えられます。

感染対策は、飛沫感染対策や接触感染対策が有効です。マスクの着用、手洗い等による手指の衛生、人と人との距離の確保など、新型コロナウイルスの感染対策と共通しています。

ワクチンの予防接種には、発症をある程度抑える効果や重症化を予防する効果があります。高齢者や基礎疾患のある方など、重症化する可能性が高い方には効果的と考えられます。

また、インフルエンザにかかった際には、異常行動(急に走り出す、ウロウロするなど)が現れることがあります。まれには事故につながる重度の異常行動が見られ、就学以降の小児や未成年男性で多いとされています。保護者等は窓からの転落などの事故防止への配慮をされると良いでしょう。

できる対策をして、これからの季節に備えてください。

参考：令和５年度インフルエンザQ&A(厚生労働省)
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulenza/QA2023.html



令和５年10月27日(金)発行

# 奈良県感染症情報

令和５年 第42週( 10月16日～ 10月22日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

咽頭結膜熱 警報発令中！

今週の概要
- 小児科外来情報

## ❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | インフルエンザ | 9.91 | (5.85) | ↑ | ↑ | ↑ | ↑↑ |
| 2 | 咽頭結膜熱 | 5.47 | (4.15) | ↑ | ↑ | ↑ | ↘ |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 3.56 | (3.15) | → | → | → | ↑ |
| 4 | 新型コロナウイルス感染症 | 2.76 | (4.65) | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |
| 5 | 感染性胃腸炎 | 2.65 | (2.38) | → | → | → | ↓ |

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

## ❖県内概況❖

第42週のインフルエンザの定点あたり報告数は9.91で、前週よりも大きく増加しました。県全域で報告されており、郡山地区、中和地区東部及び中和地区西部では注意報基準値の「10」を超えました。

咽頭結膜熱(プール熱)の定点当たり報告数は5.47で、依然として警報基準値を大きく上回り増加が続いています。特に中和地区西部で報告数が多い状態です。患者は、1歳から6歳までの未就学児が約9割を占めています。男児の報告がやや多くなっています。

A群溶連菌咽頭炎の定点あたり報告数も3.56で、中和地区西部における地域流行が継続しています。患者は1歳から14歳までの児童に幅広く報告があり、男女差はあまり見られません。

新型コロナウイルス感染症の定点あたり報告数は2.76で減少が続いています。この疾患は、これまでに何度も流行の波を形成してきており、これからの動向を注視しています。

インフルエンザをはじめとする呼吸器感染症の流行が続いています。引き続き咳エチケット、手洗い、換気、距離、マスクの適切な着用といった感染対策の継続が大切です。

## ✤小児科外来情報✤

### 北部地区(田中小児科医院)

発熱患児では、A型インフルエンザ、溶連菌感染症とアデノウイルス咽頭炎が流行している。
COVID-19、hMPVとヘルパンギーナは減少した。下痢原性大腸菌による胃腸炎が数例あった。

### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザが小学高学年を中心に増加。現在すべてA型。
COVID-19はかなり減少した。アデノウイルス、A群溶血性連鎖球菌が流行。
感染性腸炎は嘔吐のノロ様例が少し。

### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

COVID-19感染症は減少してきている。
A型インフルエンザの流行は続いている。またアデノウイルス咽頭炎も流行。
ノロウイルス等胃腸炎は散見されるのみ。遷延する呼吸器感染症ではパラインフルエンザ2型、ライノウイルス、百日咳がみられる。
ヒトメタニューモウイルスやRSウイルスは減少している。

次回週報は、令和５年11月２日(木)に発行します。

令和５年11月２日(木)発行

# 奈良県感染症情報

令和５年 第43週( 10月23日～ 10月29日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

**咽頭結膜熱警報発令中！**

今週の概要

- アデノウイルスについて

**インフルエンザ注意報発令中です！**

## ❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | インフルエンザ | 12.67 | (9.91) | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ |
| 2 | 咽頭結膜熱 | 5.09 | (5.47) | ↗ | ↑ | ↗ | ↘ |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 3.74 | (3.56) | → | → | → | → |
| 4 | 感染性胃腸炎 | 3.35 | (2.65) | ↗ | → | ↑ | ↑ |
| 5 | 新型コロナウイルス感染症 | 2.55 | (2.76) | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

## ❖県内概況❖

第43週のインフルエンザの定点あたり報告数は12.67と注意報基準値の「10」を超え、県全域での流行が見られます。

新型コロナウイルス感染症の定点あたり報告数は2.55で、引き続き動向を注視しています。

咽頭結膜熱(プール熱)の定点当たり報告数は5.09で、依然として警報基準値を大きく上回っています。特に中和地区西部では定点あたり報告数が17.83で、顕著な地域流行となっています。

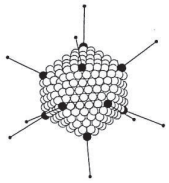
A群溶連菌咽頭炎の定点あたり報告数も3.74で、中和地区西部における地域流行が継続しています。

インフルエンザをはじめとする呼吸器感染症の流行が続いています。主な感染経路は、飛沫感染または接触感染とされています。飛沫感染防止のため咳エチケット、手洗い、換気、距離、マスクの適切な着用といった基本的な感染対策を続けましょう。また、接触感染の防止には家庭内でのタオルの共用を避けるなどの対策が有効です。

## ❖アデノウイルスについて❖

今年は、咽頭結膜熱が全国的に流行しています。奈良県でも第39週に警報基準値を超えて以来、顕著な流行となっています。原因ウイルスについて見てみましょう。

アデノウイルス科マストアデノウイルス属のヒトアデノウイルスは、エンベロープをもたない2本鎖DNAウイルスで、現在のところAからGの7種に分類され、非常に多くの型があります。ウイルス構造は、正20面体のタンパク構造の内部に2本鎖の遺伝子DNAを持ち、各頂点から突起が出た形をしています。種・型によって咽頭結膜熱のほか、流行性角結膜炎や感染性胃腸炎、出血性膀胱炎、さらには肝炎など多様な疾患の原因になります。



アデノウイルスの構造(※)

咽頭結膜熱を起こすのは主にB種の3型で、他にC種の1型、2型、5型及びE種の4型なども原因になります。感染経路は接触感染及び飛沫感染が主で、有効な治療薬はなくエタノールによる消毒も効きづらいため、手洗いが感染予防には重要となります。汚染された物や環境の消毒には、次亜塩素酸ナトリウムの含まれる消毒薬が有効です(塩素系漂白剤を水で薄めたものでも代用できます)。

保健研究センターでは、県内医療機関で採取された今年の咽頭結膜熱患者検体からB種の3型ウイルスを複数検出し、感染性胃腸炎患者からはF種の41型ウイルスを検出しています。今後も、患者情報と病原体情報の両面から感染症の発生動向調査を続けます。

※国立感染症研究所感染症疫学センター「咽頭結膜熱・流行性角結膜炎検査診断マニュアル」(第3版)より引用



令和５年11月10日(金)発行

# 奈良県感染症情報

令和５年 第44週( 10月30日～ 11月５日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

**咽頭結膜熱警報発令中！**

今週の概要

- 小児科外来情報
- 10月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

**インフルエンザ注意報発令中です！**

## ❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | インフルエンザ | 13.15 | (12.67) | ↑ | ↗ | ↑ | ↗ |
| 2 | 咽頭結膜熱 | 5.62 | (5.09) | ↗ | ↑ | ↗ | ↘ |
| 3 | 感染性胃腸炎 | 3.26 | (3.35) | → | → | → | ↑ |
| 4 | A群溶連菌咽頭炎 | 2.85 | (3.74) | → | → | ↘ | → |
| 5 | 新型コロナウイルス感染症 | 1.73 | (2.55) | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

## ❖県内概況❖

第44週のインフルエンザの定点あたり報告数は13.15と増加が続いており、依然として県全域での流行が続いています。今後さらに感染が拡大する可能性があります。

咽頭結膜熱(プール熱)の定点当たり報告数は5.62となり、前週より更に増加しました。前週同様、中和地区で顕著に流行していますが、北部地域でも増加傾向にあり注意が必要です。

新型コロナウイルス感染症の定点あたり報告数は1.73と減少傾向ですが、引き続き動向を注視しています。

これらの疾患に加え、ここ最近朝晩と日中の気温の変化が大きく、寒暖差が原因で自立神経の働きが乱れ、体調を崩す方も多いです。また、晴れる日が多く空気が乾燥すると粘膜の防御機能が低下するため、体調管理に気をつけましょう。

## ✤小児科外来情報✤

### 北部地区(田中小児科医院)

COVID-19陽性例は無かった。

A型インフルエンザが流行中です。アデノウイルス咽頭炎と溶連菌感染症の流行も続いている。

胃腸炎ではウイルス性と思われるものが殆どだが、サルモネラ菌の感染者(症状は発熱と下痢)もあった。

### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

COVID-19陽性例は激減、今週は見られなかった。

インフルエンザが増加、すべてA型。重症経過例はなかった。

感染性腸炎が流行中。嘔吐が主で水様下痢を伴う例もあるが経過は短期である。

アデノウイルスも流行。A群溶血性連鎖球菌、その他ヘルパンギーナ、手足口病はなかった。

### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

A型インフルエンザの流行が続いている。修学旅行のバス等での集団感染もみられている。

COVID-19は減少している。ウイルス性胃腸炎が増加しているが、比較的軽症で経過している。

手足口病やヘルパンギーナはほとんどみられなくなったが、アデノウイルス感染症の流行はまだ続いている。

令和５年 11 月 17 日(金)発行

# 奈良県感染症情報

令和５年 第 45 週( 11 月 6 日～ 11 月 12 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

咽頭結膜熱 警報発令中！

**インフルエンザ注意報発令中です！**

今週の概要
- 12 月 1 日は「世界エイズデー」
- 病原体(ウイルス)検出情報(10 月)

## ❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | インフルエンザ | 14.93 | (13.15) | ↑ | → | ↑ | ↑ |
| 2 | 咽頭結膜熱 | 6.41 | (5.62) | ↗ | ↑ | ↗ | ↗ |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 3.97 | (2.85) | → | ↗ | → | ↗ |
| 4 | 感染性胃腸炎 | 3.41 | (3.26) | → | ↗ | → | → |
| 5 | 新型コロナウイルス感染症 | 1.76 | (1.73) | ↘ | ↘ | ↘ | ↓ |

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

## ❖県内概況❖

第 45 週のインフルエンザの定点あたり報告数は 14.93 と増加が続いており、依然として県全域で流行中です。幼児から高齢者まで幅広い年齢層で報告があるため、注意が必要です。

咽頭結膜熱(プール熱)の定点当たり報告数は 6.41 と前週からさらに増加し、警報基準値の「3」を大きく上回る推移が続いています。県内全域において報告数の増加がみられ、感染が拡大しています。

A 群溶連菌咽頭炎の定点あたり報告数は 3.97 と高い水準で推移しており、特に中和地区西部では定点あたり報告数が 13.00 で、警報基準値の「8」を大きく上回り、特定地域での流行となっています。

これらの感染症の主な感染経路は、飛沫感染または接触感染とされています。手洗いや換気、マスクの適切な着用等の基本的感染対策のほか、症状がある場合は高齢者等のハイリスク者と接触を控える等の配慮をお願いします。

## ❖12 月 1 日は「世界エイズデー」❖

世界エイズデー(World AIDS Day:12 月 1 日)は、世界レベルでのエイズのまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を目的に、WHO(世界保健機関)が 1988 年に制定したもので、毎年 12 月 1 日を中心に、世界各国でエイズに関する啓発活動が行われています。

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eizu/index.html(厚生労働省 HP)

## ❖病原体(ウイルス)検出情報(令和５年 10 月)❖

＊ウイルス分離同定日での集計結果

| 検出病原体 | | 北部 | 中部 | 南部 | 臨床診断名 |
|---|---|---|---|---|---|
| アデノ | 3 | | 3 | | 咽頭結膜熱(3) |
| インフルエンザ | AH3 | | 5 | | インフルエンザ(5) |
| インフルエンザ | AH1pdm09 | | 1 | | インフルエンザ(1) |
| インフルエンザ | B ビクトリア系統 | 1 | | | インフルエンザ(1) |



令和５年 11 月 24 日(金)発行

# 奈良県感染症情報

令和５年 第 46 週( 11 月 13 日～ 11 月 19 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

咽頭結膜熱 警報発令中！

**インフルエンザ注意報発令中です！**

今週の概要
- 小児科外来情報

## ❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | インフルエンザ | 21.96 | (14.93) | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ |
| 2 | 咽頭結膜熱 | 5.26 | (6.41) | → | ↗ | → | → |
| 3 | 感染性胃腸炎 | 4.53 | (3.41) | ↑ | ↗ | ↑ | ↑↑ |
| 4 | A群溶連菌咽頭炎 | 3.71 | (3.97) | → | ↗ | → | ↑ |
| 5 | 新型コロナウイルス感染症 | 1.91 | (1.76) | ↘ | → | ↘ | ↓ |

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

## ❖県内概況❖

第 46 週のインフルエンザの定点あたり報告数は 21.96 と前週と比して大幅に増加し、中和地区西部では定点あたり報告数が 41.00 と警報基準値「30」を大きく上回り、感染が拡大しています。周囲の人にうつさないよう、普段から手洗いや咳エチケット等の基本的な感染対策を心がけましょう。

アデノウイルスが原因となる咽頭結膜熱(プール熱)の定点当たり報告数は 5.26 と依然高い水準で推移しています。感染力が非常に強いため、感染者との密接な接触は避け、石けんと流水によるこまめな手洗いを励行しましょう。

感染症胃腸炎の定点当たり報告数は 4.53 と増加し、特に南部地域での報告数が急増しています。感染性胃腸炎の患者発生は、例年、12 月の中旬頃にピークとなる傾向があるので、注意しましょう。

A 群溶連菌咽頭炎の定点あたり報告数は 3.71 と高い水準で推移しています。治療には抗生物質が用いられます。処方された抗生物質は全て飲み切るようにしましょう。

## ✤小児科外来情報✤

**北部地区(田中小児科医院)**

A 型インフルエンザは減少してきている。溶連菌感染症とアデノウイルス感染症の流行は続いている。
アデノウイルス感染症にあっては、約 1 か月の間隔で 2 回目の発症した 3 症例があった。
COVID-19 は週に 1 例ほどに減少した。感染性胃腸炎の流行はない。

**中部地区(岡本内科こどもクリニック)**

学童を中心にインフルエンザが増加中。すべて A 型。ただしインフルエンザ一色という程ではない。
症状は短期の発熱、咽頭痛程度で軽症経過。COVID-19 陽性例は激減した。
嘔吐を主とするノロ様の感染性腸炎が流行、水様下痢を伴う例もある。輸液を必要とするほどの例はない。
アデノ検査キットが不足しているが、幼児でアデノ様の高熱例も流行。

**南部地区(南奈良総合医療センター小児科)**

A 型インフルエンザの流行が続いている。痙攣や異常行動を伴うことも多い。COVID-19 は散見されるのみ。
嘔吐中心の胃腸炎が急増してきた。対症療法で軽快している。
アデノウイルス感染症は若干減少してきている。

令和５年 12 月 1 日(金)発行

# 奈良県感染症情報

令和５年 第 47 週( 11 月 20 日～ 11 月 26 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

咽頭結膜熱警報発令中！

**インフルエンザ注意報発令中です！**

今週の概要
- 高齢者のインフルエンザワクチン定期接種について

## ❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | インフルエンザ | 28.73 | (21.96) | ↑ | ↑ | ↑ | → |
| 2 | 咽頭結膜熱 | 5.91 | (5.26) | → | ↑ | → | → |
| 3 | 感染性胃腸炎 | 5.15 | (4.53) | ↑ | ↗ | ↑ | ↗ |
| 4 | A群溶連菌咽頭炎 | 3.71 | (3.71) | → | ↗ | → | ↑ |
| 5 | 新型コロナウイルス感染症 | 1.93 | (1.91) | → | → | → | ↘ |

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

## ❖県内概況❖

第 47 週のインフルエンザの定点あたり報告数は 28.73 と増加し、警報発令基準値である「30」間近となっています。また、インフルエンザによる入院数も増加しています。インフルエンザに感染した場合は、咳エチケットの徹底、人混みや繁華街への外出を控えるなど、「他の人にうつさない」よう行動に注意しましょう。

咽頭結膜熱(プール熱)の定点当たり報告数は 5.91 と高い水準で推移しており、警報発令継続中です。飛沫感染、接触感染、便を介しての経口感染があります。タオルなどの共用をさけること、流水と石けんによる手洗いや咳エチケットが感染予防に有効です。

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は 5.15 と増加しています。冬季に流行する感染性胃腸炎の主な原因として、ノロウイルスによる感染があります。ノロウイルスはアルコール消毒の効果が低いため、ドアノブや器具などには次亜塩素酸ナトリウムや熱湯による消毒が効果的です。感染予防には、手洗いが有効な対策となります。調理前、食事前、トイレに行った後等には必ず手洗いを行いましょう。

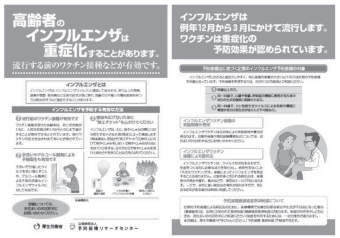
A 群溶連菌咽頭炎の定点あたり報告数は 3.71 と依然高い水準で推移しています。引き続き注意が必要です。

## ❖高齢者のインフルエンザワクチン定期接種について❖

65 歳以上の高齢者の方などは、インフルエンザにかかると重症化しやすく、インフルエンザワクチン接種による重症化の予防効果による便益が大きいと考えられるため、予防接種法に基づく定期の予防接種の対象となっています。

予防接種を希望する方は、かかりつけの医師とよく相談の上、接種を受けるか否か判断してください。また、自治体により実施期間や費用が異なります。詳細や接種可能な医療機関については、お住まいの市町村にお問い合わせていただくようお願いします。

予防接種の効果が期待できるのは、接種した 2 週間後から数ヶ月間とされています。年末年始は旅行や帰省などで人と接触する機会が増えることがあります。予防接種を含め、感染対策を徹底して、健康に年末年始を過ごしましょう。




厚生労働省 HP
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/tool/dl/leaf03-02.pdf



1令和５年 12 月 8 日(金)発行

# 奈良県感染症情報

令和５年 第 48 週( 11 月 27 日～ 12 月 3 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

咽頭結膜熱警報発令中！

**インフルエンザ注意報発令中です！**

今週の概要
- 小児科外来情報

## ❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | インフルエンザ | 27.69 | (28.73) | ↑ | ↑ | ↗ | ↑ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 5.38 | (5.15) | ↗ | ↗ | ↗ | ↑ |
| 3 | 咽頭結膜熱 | 4.94 | (5.91) | → | ↗ | ↘ | ↗ |
| 4 | 新型コロナウイルス感染症 | 3.58 | (1.93) | ↑ | ↑ | ↑ | ↘ |
| 5 | A群溶連菌咽頭炎 | 2.79 | (3.71) | ↘ | → | ↘ | ↘ |

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

## ❖県内概況❖

第 48 週のインフルエンザの定点当たり報告数は、27.69 で、注意報発令中です。

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は、3.58 と前週の 1.93 に比べて増加しています。

適切な手洗い・換気は、インフルエンザ対策、新型コロナウイルス感染症対策の両方において大切です。常時換気設備や換気扇を利用すると室温を大きく下げることなく換気が出来ます。窓を開けて空気を入れかえる際は、対角線上にある窓やドアを 2 か所解放すると効果的です。

咽頭結膜熱の定点あたり報告数は 4.94 と高い水準で推移しており、警報発令中です。咽頭結膜熱は、症状がなくなった後も約 1 ヶ月間、ウイルスが便や尿に排出されることがあります。トイレの後や、おむつの交換後などはしっかりと手を洗うようにしましょう。特に幼児での報告が多くなっていますので、この機会に正しい手洗い方法の確認・練習をしてみましょう。

## ✤小児科外来情報✤

### 北部地区(田中小児科医院)

インフルエンザとアデノウイルス咽頭炎は、やや減少した感じはあるが流行は続いている。

COVID-19 と溶連菌感染症は散見されるのみ。

感染性胃腸炎がやや増加傾向にある。

アデノウイルス感染症に、今シーズン中、2 度感染した者が数例あった。

### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザが急増。今冬当クリニックではすべて A 型。微熱の例もある。10 月、11 月の短期間に 2 度罹患の乳児があった。

COVID-19 陽性例は散見されまだゼロにはなっていない。問診上、発熱、頭痛、倦怠が主で鼻・咳などの上気道炎症状があまりないものがコロナ疑い(数例であるが)の印象。

嘔吐を主とする短期経過の感染性腸炎が流行、水様下痢を伴う例もある。

アデノ様の発熱例があるがキット不足により臨床診断。

### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザ A の流行は続いている。COVID-19 感染は散見されるのみ。

アデノウイルス咽頭炎は減少してきている。嘔吐中心の胃腸炎が増加している。

10 月と 11 月にインフルエンザ A を 2 回感染した幼児もみられた。

出典：厚生労働省 HP
(https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/keihatu.html)

令和５年 12 月 15 日(金)発行

# 奈良県感染症情報

令和５年 第 49 週( 12 月 4 日～ 12 月 10 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

## 「インフルエンザ」「咽頭結膜熱」 警報発令中です！

**今週の概要**

- 病原体(ウイルス)検出情報(11 月)
- 11 月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | インフルエンザ | 33.65 | (27.69) | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 5.76 | (5.38) | ↗ | ↗ | ↑ | → |
| 3 | 咽頭結膜熱 | 4.18 | (4.94) | ↘ | → | ↘ | ↗ |
| 4 | 新型コロナウイルス感染症 | 4.09 | (3.58) | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ |
| 5 | A群溶連菌咽頭炎 | 4.06 | (2.79) | → | → | ↗ | ↗ |

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

### ❖県内概況❖

第 49 週のインフルエンザの定点当たり報告数は、33.65 と警報基準値「30.0」を上回り、警報発令となりました。県内全域で報告数が増加しており、特に中和保健所管内からの報告が多くなっています。

咽頭結膜熱の定点あたり報告数は 4.18 と、前週の 4.94 より減少していますが、依然として警報基準値「3.0」を上回っており、引き続き警報発令中です。

新型コロナウイルス感染症の定点あたり報告数は 4.09 と、前週の 3.58 より増加しています。

A 群溶連菌咽頭炎の定点当たり報告数は 4.06 と増加しており、特に中和保健所西部地域の報告数が非常に多くなっています。

感染症対策の基本は、「手洗い」や「マスクの着用を含む咳エチケット」です。ほかの人にうつしてしまわないよう、「咳エチケット」にご協力をおねがいします。

出典：厚生労働省 HP
https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001174681.pdf

### ❖病原体(ウイルス)検出情報(令和 5 年 12 月)❖

＊ウイルス分離同定日での集計結果

| 検出病原体 | | 北部 | 中部 | 南部 | その他 | 臨床診断名 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| アデノ | 3 | 2 | 4 | | 1 | 咽頭結膜熱(4)<br>アデノウイルス感染症 (1)<br>感染性胃腸炎・アデノウイルス咽頭炎 (1)<br>アデノウイルス咽頭炎 (1) |
| インフルエンザ | AH3 | 1 | 1 | | | インフルエンザ(2) |
| インフルエンザ | AH1pdm09 | 2 | 3 | | | インフルエンザ(5) |



令和５年 12 月 21 日(木)発行

# 奈良県感染症情報

令和５年 第 50 週( 12 月 11 日～ 12 月 17 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

## 「インフルエンザ」「咽頭結膜熱」 警報発令中です！

**今週の概要**

- 小児科外来情報

### ❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | インフルエンザ | 29.24 | (33.65) | → | ↗ | → | ↑ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 5.15 | (5.76) | → | → | → | → |
| 3 | 新型コロナウイルス感染症 | 3.96 | (4.09) | ↗ | ↑ | ↗ | ↗ |
| 4 | A群溶連菌咽頭炎 | 3.56 | (4.06) | → | → | → | → |
| 5 | 咽頭結膜熱 | 3.26 | (4.18) | ↘ | ↘ | ↘ | → |

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

### ❖県内概況❖

インフルエンザ警報発令中です。第 50 週のインフルエンザの定点当たり報告数は 29.24 と前週の 33.65 より減少していますが、引き続き高い水準で推移しています。県内医療機関から提出され当センターで検査した検体からは、主に AH1pdm09 亜型と AH3 亜型が検出されており、これらの A 型インフルエンザが流行していると考えられます。今シーズンは複数回 A 型インフルエンザにかかった例の報告もあるため注意が必要です。

咽頭結膜熱警報発令中です。咽頭結膜熱の定点あたり報告数は 3.26 と、前週の 4.18 よりも減少していますが、警報基準値である「3.0」を上回っており、依然として報告数の多い状況が続いています。

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は 3.96 と、前週の 4.09 より減少していますが、入院基幹定点報告数は増加しています。高齢者や基礎疾患のある方が感染すれば重症化リスクも高まります。「手洗い」や「換気」、「マスクの効果的な場面などでの着用」など基本的な対策をお願いします。

### ✤小児科外来情報✤

**北部地区(田中小児科医院)**

A 型インフルエンザは園児や学童で流行している。インフルエンザワクチン未接種がほとんどです。
アデノウイルス感染症は園児とその家族での発症が多い。
COVID-19 と溶連菌感染症は散見されるのみ。感染性胃腸炎は流行に至っていない。

**中部地区(岡本内科こどもクリニック)**

インフルエンザが小学高学年を中心に増加。経過は短期で軽症経過がほとんど。
COVID-19 例は殆ど見られなくなってきた。
感染性腸はわずかに減少傾向。アデノ様例もやや減少傾向。今週からの厳寒でまた様相が変わるかも。
RS 陽性例、A 群溶血性連鎖球菌も見られた。

**南部地区(南奈良総合医療センター小児科)**

A 型インフルエンザの流行が続いている。抗ウイルス剤耐性とみられる例はみられない。
COVID-19 は散見されるも増加してきてはいない。
アデノウイルス感染症や溶連菌感染症も多くみられている。
またノロウイルスを含めたウイルス性胃腸炎も増加している。
遷延する呼吸器感染症ではヒトメタニューモウイルス陽性が増加してきた。
マイコプラズマ感染はみられない。

次回週報は
12 月 28 日(木)発行予定

令和５年 12 月 28 日(木)発行

# 奈良県感染症情報

令和５年 第 51 週( 12 月 18 日～ 12 月 24 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

## 「インフルエンザ」「咽頭結膜熱」 警報発令中です！

**今週の概要**
- 年末年始に海外旅行をされる予定の皆様へ

### ❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | インフルエンザ | 19.09 | (29.24) | ↘ | ↘ | ↘ | ↗ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 5.32 | (5.15) | → | → | → | → |
| 3 | Ａ群溶連菌咽頭炎 | 4.21 | (3.56) | → | ↗ | → | ↑ |
| 4 | 新型コロナウイルス感染症 | 4.20 | (3.96) | ↗ | → | ↗ | ↑↑ |
| 5 | 咽頭結膜熱 | 2.47 | (3.26) | ↘ | ↘ | ↓ | ↓ |

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

### ❖県内概況❖

第 51 週のインフルエンザの定点当たり報告数は 19.09 と、前週の 29.24 よりも大きく減少していますが、警報終息基準値である「10.0」を上回る水準で推移しているため、引き続き注意が必要です。

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は 2.47 と、前週の 3.26 よりも減少していますが、警報終息基準値である「1.0」を上回る水準で推移しているため、引き続き注意が必要です。

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は 4.20 と前週の 3.96 よりも増加しており、入院基幹定点報告数も増加が続いています。

年末年始は、帰省や初詣など、普段会わない方との接触が増え、感染症が広がる可能性が高まります。手洗いや換気など、基本的な感染予防対策を心がけるようにしましょう。また、体調が悪い場合は無理をせず、しっかりと休むようにしましょう。

### ✤年末年始に海外旅行をされる予定の皆様へ✤

今年の年末年始は、海外旅行をされる方が増加することが予想されます。海外では、デング熱や麻しんなど、国内で通常見られない感染症が発生していることもあるため、渡航先によっては注意が必要です。渡航前に「厚生労働省検疫所ホームページ(FORTH):http://www.forth.go.jp/index.html」で最新の情報を確認しましょう。

- ✓ 生水・氷・カットフルーツの入ったものを食べることは避けましょう。
- ✓ 食事は、十分に火の通った、信頼できるものを食べましょう。
- ✓ 蚊・ダニに刺されないよう、服装に注意し、必要に応じて虫除け剤を使いましょう。
- ✓ 動物は狂犬病や鳥インフルエンザなどのウイルスを持っていることがあります。むやみに近寄ったり、触ったりしないようにしましょう。
- ✓ 性感染症等、性行為によってうつる病気も多くあります。開放的な気分になることもあるかと思いますが、安易な行動は避けてください。

出典：厚生労働省 HP
(https://www.mhlw.go.jp/content/001098016.pdf)

感染症には、潜伏期間が数日から一週間以上と長いものもあり、渡航中や帰国直後に症状がなくても、しばらくしてから体調が悪くなることがあります。その場合は、医療機関へ事前に連絡した上で受診し、渡航先、滞在期間、現地での飲食状況、渡航先での活動内容、動物との接触の有無、ワクチン接種歴などについて必ず伝えるようにしてください。

次回週報(第 52 週・第 1 週)は 2024 年 1 月 12 日(金)発行予定





## ― 梅毒が拡大しています ―

### ☆梅毒とは

梅毒は、梅毒トレポネーマという病原体が原因の感染症で、主に**性的接触により感染**します。オーラルセックス（口腔性交）やアナルセックス（肛門性交）などでも感染します。梅毒に感染すると、性器や口の中に小豆から指先くらいのしこりができたり、手のひらや体中に痛み、かゆみのない発疹ができたりします。**自然に症状が消えても、梅毒が体の中で潜伏していることがあるため、注意が必要です。**治療に有効な抗菌薬がありますが、**治療をしないまま放置していると、数年から数十年の間に心臓や血管、脳などの複数の臓器に拡がり、死に至る**こともあります。

2011 年頃から全国的に報告数が増加傾向になり、2019 年、2020 年にはいったん減少したものの、2021 年以降は大きく増加しています。男性は 20 代～50 代、女性は 20 代で報告が多い状況です。

多数の人と性的接触を持つと感染する（または感染させる）リスクが高まります。また、一度完治しても生涯にわたる免疫（終生免疫）は得られず、**再感染**する可能性があります。

予防には、性交渉時のコンドームの適切な使用が重要ですが、コンドームで覆わない部分で感染が起こることもあるため、完全に感染を防ぐことはできません。皮膚や粘膜に異常がある場合は性的接触を控え、医療機関を受診して下さい。

### ☆妊娠中の梅毒感染は特に危険です

**妊娠している人**が梅毒に感染すると、母親だけでなく胎盤を通じて胎児にも感染し、**先天梅毒**になることがあります。先天梅毒になると、**死産や早産になったり、生まれてくるこどもの神経や骨などに異常をきたしたり**することがあります。生まれたときに症状がなくても、遅れて症状が出ることもあります。

近年、先天梅毒の報告が多くなっており、2022 年には県内での報告もありました。

### ☆奈良県の状況

奈良県も全国同様に梅毒患者の報告は増加しており、2023 年は、報告数の多かった 2022 年を上回る勢いで報告数が増加しています。

男性は 20 代～40 代の報告数が増加傾向、女性は 10 代・20 代の報告数が特に増加しています。

NESID(感染症サーベイランスシステム)から集計
※2023 年は 8 月時点の報告数

### ☆症状があるときや不安なときは早めの検査を

梅毒は、早期発見・早期治療で治る病気です。

**男女ともに、親となる年齢層からの報告が多くなっていますので、注意が必要です。**

症状があるときや、不安なときは、パートナーと一緒に**必ず検査を受ける**ようにして下さい。

感染症情報センター